

(別紙の2)

## 自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念「ほつとハウスのおひさまの暮らし」を玄関、事務所に掲示し共有出来るようにしている、また全体会議、内部研修、個人面談等折にふれ理念について確認している。	開所して1年を満たないホームだが、法人内研修を基にホーム独自の「温かく、ほつと安心できる家」を旨として実践に移している。個々の利用者さんの特性を大切に、自宅感覚で利用して頂けるように日々努力している様子が伺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	施設開所8ヶ月常盤地区では、初めてのグループホームとして期待されている、10月の「ときわ祭」には利用者と一緒に、地域の方が大勢参加して下さり、施設の取り組みを理解していただく良い機会になりました。	地域にまず知って頂こうと、隣接する同法人のサービス付高齢者住宅「リーベときわ」と共にお祭りを開催。160食ほど準備したおでん・豚汁が完売する程の来客を招き、ホーム内も案内して交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症対応型の施設であることを、発信しながら、見学者、行事のボランティアさんの来所時の折に触れて、認知症の理解と悩み事や支援方法のお話をさせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し行政・常会長・民生委員・利用者の代表家族が出席されて、施設の状況と利用者様の状況を説明させて頂いている。参加者の皆さんからご意見・要望・アドバイスを頂き、スタッフのサービスの向上に努めている。	会議録から近くの駐在所職員も参加するなど、年2回の避難訓練では夜間火災を想定した訓練を行ない、その後の意見交換を積極的に行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議、介護認定調査など行政の方が来所した折に事業所の日頃の様子を見て頂いたりして、情報交換をしている。	常盤地区で初めてのグループホームとして市でも注目され、運営推進会議には市の職員の参加や、野菜栽培をしている農家からの差し入れもあるなど、地元から行政へと連携の輪が広がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修や勉強会を行い意識の共有化を図り身体拘束禁止を学び日々の言葉の拘束等を含めお互いに注意しあっている、玄関の施錠はしないことを常として、やむを得ない場合は、スタッフの連携の中で開放に努めている。	法人内で「かいごの学校」の運営もされており、最新の介護の実態など実践に基づいた研修も行届いている。しっかり学んだ管理者の元、身体拘束のない現場対応となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止関連法については、全体会議でも勉強会を設けて意識を深め防止意識を高めている。実施例として、入浴時など外傷が無いが、チェックし報告、原因の明確化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	成年後見制度については、行政機関の行う説明会に参加して、理解を深めている。又施設には制度を利用している利用者もおられる為、制度を理解して利用者が困らないように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に一つ一つの「利用するための契約」「身体拘束」など契約書類を分けてわかりやすく説明できるように配慮して、時間をかけて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や各種行事の内容を盛り込んだ「信濃ときわの家のたより」を毎月一回発行して配布している。内容についての評価を、ご家族の面会時や家族会、クリスマス会の折に意見・要望を伺います。それを全体会議でも反映させている。	毎月の新聞やブログでホームの様子を配信している。行事に参加した家族に直接聞き取りを行なうなど、温かな管理者の人柄で家族側の意見を引き出し、今後の運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	平成28年4月より人事考課を導入している、職員は2回の自己評価をし、その後、面談を行こなうことになっている。その個別面談で反映する機会を作ったり、全体会議、ユニット会議で意見が反映できる環境となつている。	服薬管理場所と記録入りがしやすいように工夫され、緊急時の持ち出し書類の整理など、職員が動きやすく、困らないように整備されている。職員の意見の集約の賜物と感じた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事制度による賃金規程を作成し、個々の努力や実績、勤務状況により、昇給、昇格を行い、各自が向上心を持って働ける仕組みがある。また、定年退職後の職員も個々の雇用契約で延長しながら、経験を生かした働き方も取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月内部研修をおこなっている。研修テーマは、介護現場で必要な研修はもとより、当該ホームで必要とされる研修を随時取り入れている。外部研修も希望者は参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	当社グループの事業所の職員との交流を図ったり、外部研修などで他の事業所の方との意見交換を出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に、本人との面会を行い様子や性格等の把握に努めて、入所後1ヶ月程は特に様子を見守り関係性を大事にして、気持ちを引きだねるように心配り、情報の共有化を図り、安全・安心感に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の方にも、今まで家庭でどんな風な生活をされていたかを伺い、グループホームでの生活との違いを理解して頂き、家の生活を継続出来るように、家族の不安や要望に添える様な関係づくりをしていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時に現状を十分にお聞きして、当ホームの説明と他の施設の違いを理解して頂き、状況により他の施設を紹介することも考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	笑顔を決やらず、利用者主体で「おひさまな暮らし」を合言葉とし寄り添い、優しく支援をし、穏やかな暮らしが保てるよう、利用者との関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の「おたより」に利用者日々の近況や出来事や生活の様子をお知らせして、家族との一体感を失わないように努めている。行事にも参加して頂けるように声掛けにも心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出時に馴染みの場所に立ち寄りたり、一人ひとりの大切な人との繋がりが思い出が途切れないうように支援している。家族や友人の面会は何時でも来ていただけるように開放している。	外部からの訪問者を歓迎し、開放的なホームの姿勢が伺える。外出の際は利用者さんが以前勤めていた会社近くを通るなど、利用者さんの懐かしむ様子を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の仲良しに合わせた席を考えています。穏やかな交流が出来るように、雰囲気作りにも努めてコミュニケーションが図られる関係を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他の施設・事業所へ入所された場合でも家族にお会いする機会があれば失礼の無いように様子を伺ったり、その後も相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	居室や入浴時など日常の会話の中で、ここでの生活のしづらさや意向や希望を丁寧に聞いて、その後も相談に応じている。	周囲から苦手がられて入所してきた利用者さんには、ご本人にあった環境を管理者と職員で日々追究し、今では特性を生かした対応で服薬に頼らず、落ち着いた生活を送っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時に本人の意向を大切に、特に家族にも生活歴・サービス利用歴等を聞かせていただき、これまでの暮らしの継続性とニーズの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日その日の様子を観察・スタッフ同士の引継ぎを大切に現状の把握に努めている。毎月実施している、全体会議で情報を持ち寄りスタッフで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネとスタッフは、利用者の日常の様子把握に努めて、全体会議で評価を行い介護計画の見直し改善を図っている。本人・家族の方の意見がプランに反映できているかを、面会時等に伺い同意を得ている。	スタッフ間の連絡ノートを大切に、利用者さんの新たな気づき情報を共有して、毎月ケア会議を開いている。ご家族の面会時には介護計画等を提示し、確認をとっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活記録やケアプランの実施記録には、日々の気づきを書き入れスタッフ間で情報を共有し介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	利用者の中には、レクリエーションや体を動かす体操をしたり、お話や触れ合いを楽しみにされる方もおり、CD・DVDを活用して音や映像を使い活動的なサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会の常会長・民生委員の方々の協力を得ながら今後は、地区の公民館活動に参加して安全・安心な暮らしに協力を頂くようしている。地域の方からの野菜のお裾分けなど地域と利用者との関係づくりが出来てきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は入所時に、本人・家族にも選択して頂き、適切な医療を受けられるように家族にも協力をお願いしている。又スタッフも情報を共有して、受診後の様子をしっかりと伺って必要に応じた対応している。	医師の選択はご家族に検討して頂いているが、ホームに週2回看護師が訪問し、利用者さん個々の健康状態を把握している。状態によっては毎月訪問している法人嘱託医に繋げながら、適切な医療ケアに心掛けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	医師の往診(月に一回)と毎週火・金曜日に看護師の訪問を受ける。その時には利用者の様子をお伝えして、変化のある時には、電話などで相談し対応方法などを教わりながら必要に応じた介護をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者やスタッフが面会に行ったり、家族に状況をお伺いして、情報交換をしたり、医療機関に電話をして情報交換をして利用者が困らない関係づくりが出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に看取りの指針について、説明をして同意を得ている。重度化が見られ始めた時点から、主治医・本人・家族と話し合いグループホームで出来る事を双方での理解納得の上共有し取り組んでいる。	開所後既に緊急時の体験もされており、実際、介護スタッフが利用者の異変に気づき、看護師、管理者に繋げ、医師、家族との連携の基チームで取り組んだ実績がある。入院の際も利用者さんに不安のないよう配慮がされている様子が伺えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年間研修計画の中に急変時の対応・緊急時の対応について盛り込み勉強会を行っている。利用者の予想される急変については、スタッフの中で情報を共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の昼夜想定避難誘導訓練を実施している。当年は防火管理者による初期消火、消火器の使用方法、119番通報について指導、講習を行っている。いざという時のために地域消防署や地域の方への理解協力をお願いしている。	近くの駐在所からも運営推進会議に参加して頂き、日頃からホーム内の様子を確認してもらうなど、また避難口内外は備品も置かず、日頃から緊急時に備えている様子が伺える。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者が人生の先輩であることを忘れずに明るく和気あいあいとした生活の中でも尊敬を大切にして一人ひとりの表情に目を見ながら丁寧に接する事に心掛けて、排泄、入浴の時などプライバシーを損ねないよう、言葉かけにも配慮している。	介護スタッフが利用者さんの特性を観察し、スタッフ間で情報交換し理解を深め、適切な対応に繋げようと努力している。より良い対応に繋げる為には、スタッフ不足の否めない現実を感じる。	プライバシーを考え、利用し易く設計された個室になっているが、それだけに人手の必要性を感じる。個々のニーズに沿ったサービスであればなおの事、今の人員配置ではどこか無理をしている様子が伺え、スタッフ個々への過度な負担が心配される。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の意向を大切にしている、普段の会話の中で出て来た希望などは、早期に無理のない範囲で対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日一日の体調や気分の様子を伺い見守りのもと、その日を穏やかに安心して過ごして頂けるように支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみについては、着替えの衣類は自分で選んでいただくようお願いし本人の意向を大切にいつも清潔で居る事に支援している。本人の希望で2ヶ月ごとの訪問理美容に依頼するなどしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立表には出来るだけ利用者の希望を反映させるようにしている、食事の準備から片付けまで利用者の力量に合わせて、参加して頂いている。自発的に手伝いをして下さる方も多くスタッフと一緒に楽しんでいる。	冷蔵庫を開けてメニューを考えるとといった家庭的な雰囲気大切にしている。ご近所の農家より頂く旬な野菜で、利用者さん好みのメニューの提供に心掛けている。食事時間前後の台所の周りは利用者で賑わっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの希望や状態に合わせて、食事の際に形態・摂取量・水分量の確認をして、必要に応じてチェック表に記入をし、経過観察をし食事形態や盛り付けにも工夫をしたり配慮している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後声掛け誘導して、自歯の人は歯ブラシを、義歯の方の口腔ケアには付き添い見守りのもとで実施している。なるべく本人の意思や意欲を取り入れたケアを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	各部屋にトイレが設置されていて、排泄パターンを把握するのに苦労しました。排泄チェック表を元に一人ひとりの排泄パターンを把握しながら支援している。「出来るだけトイレでの排泄を目標として」タイミングを見て声がけし自立支援にも努める	定時排泄の誘導に努め、一人ひとりにあったパターンを見出して、トイレでの排泄を目ざして努力している。使い易く研究されて設置されているトイレを生かした対応に日々心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄チェック表を活用しながら、便秘予防に食材の工夫もして牛乳、ヨーグルトなどを取り入れて、自然排便を促すような対応もしている。適度な歩行訓練を心掛けている。必要に応じて医師に相談して下剤服用などでコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	利用者の希望を確認しながら、入浴は一週間に最低2回以上は利用できるように支援、健康状態や精神的な面も見極めて、入浴中は会話を楽しみながら入浴が出来る様に支援している。	浴室は家庭的な雰囲気、一人ずつ安心して入浴できるようになっている。入浴日はご本人の希望を聞き、体調やその日の希望を再確認しながら、1対1の関わりの時間を大切に考えて実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中もレクレーションの間にもご本人が休みたい時に休めるようにしている。夕食後の就寝時間は、自由で一人ひとりの思いで居室に戻り休まれる。一人ひとりの睡眠時間に合わせて、室温や寝具の整理をする様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬係りを主に、スタッフが薬の変更や服薬について情報を共有し理解するために、申し送りノートを活用したり誤薬の無い様に3回確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一日を通して食器拭きや洗濯物を畳むなど、それぞれの役割を持って楽しみながら生活が出来るように支援していきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の要望に合わせて、外出・ドライブ・季節のお花見を楽しみに出掛け、外食もしてラーメンを召し上がり好評でした。家族と本人との外出も出来る様に面会時に働き掛けて、家族の協力も得られている。	同法人の経営する食堂で外食を楽しんだり、移動時は近くの利用者さんの懐かしの場所を通るなど、それぞれに楽しんで頂けるように工夫して実施している。	人手不足で実際には難しいと聞かすが、実態では外出までは難しいサービスと聞いている。特に管理者一人の負担になっていないか心配される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族よりお小遣いとして、持って来て頂いている。お小遣いは基本的に施設で預かっていて、本人・家族の希望で使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の所に電話をしたいという希望があれば、どんなお話をされるのか少し内容を確認させて頂き、自由に電話が出来るようにしている。年末には年賀状をスタッフと一緒に書いて頂くよう勧めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	天気の良い日には、デッキに出て外気浴をしたり、ホールの壁を中心に、余暇活動で作った作品を飾ったり、季節感のある花や木をホール内に配置したり、空調関係は利用者に合わせて、部屋の温度や明るさ等に気を配っている。	皆さんが集まる広いホールに向かっての台所は、対面キッチンになっており、皆さんと関わりながら台所仕事ができるようになっていて、大きな掃き出し窓から見える北アルプスと電車が通過する眺めで解放感にあふれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの居室で、ひとりになれる空間を提供して、ホールで仲良しな利用者同士が気楽にお話ができる関係が出来る様に、食事の席の配慮をしたりと、思いをお伺いして楽しい雰囲気作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、入所前の生活の継続性を大切に、馴染みのある家具・写真・置物・ぬいぐるみや遺影を飾って置いている利用者もあり、持ち込み自由に配置して頂いている。	各部屋は家庭からの馴染みの品などを自由に持ち込みができ、個々の特性に沿った自分らしい居室空間への配慮の様子が伺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部にはなるべく障害物になる物は置かないようにして、自室の入り口には本人が分かりやすい様に貼り紙で名前を付けたり、トイレには大きな文字で明記したりと分かり易い様工夫をしている。		